町の鳥・セグロセキレイ

広報 まつだ

平成24年（2012）11

●人口　11,581人　●4,489世帯
（平成24年10月1日現在）

発行・松田町　編集・企画財政課
〒258-8585　松田町松田惣領2037番地
☎0465-83-1222　fax 0465-83-1229
http://town.matsuda.kanagawa.jp/

陸前高田市長 世界に誇れる美しいまちへ

松田町で講演

「生まれて初めて絶望というものを感じた」。未曾有の巨大地震と大津波に見舞われ、壊滅的な被害を受けた岩手県陸前高田市の戸羽太市長（47）は10月5日午後、松田町民文化センターで行われた講演会で、約千人を前に、こう語り始めました。東日本大震災から1年半、1555人もの犠牲者と、なお223人の行方不明者に加え、復興の進まないまちの現状を大震災からの教訓を交えながら、「世界に誇れる美しいまちへの復興を目指して」との熱い思いを語られ、満席の会場から大きな感動の拍手を受けていました。

講演は松田町と県市町村振興協会の主催による「市町村自治啓発セミナー」として、開催されました。昨年3月11日、あの震災・大津波で市民の1割近くが犠牲となり、市役所・消防本部など公共施設をはじめ建物の半数近くが全半壊するなどの大きな被害を受けました。

戸羽市長は松田町生まれ。昨年2月の市長選で初当選、東北では最年少の市長となり、まちづくりに取り組み始めた矢先の大震災でした。自身、最愛の妻を失いながら、がれきの山の中から市役所、市民の先頭に立って復興に取り組んでこられました。

市長の出生地でもある松田町は、被災以降、周辺自治体とともに支援を続けてきました。被災直後には消防団長と職員がオフロードバイク、野菜1トンとパソコンなどの事務用品を、6月には松田小学校児童が回収したアルミ缶の収益金を激励文とともに送り、その他にも町民の方々から寄せられた義援金もお届けしました。

教育、建設、福祉関係の職員の研修派遣、社会福祉協議会によるボランティア活動、そして11月には津波到達点を桜の木で結ぶ桜ライン311に河津桜を植樹して石碑も建立、野球スポーツ少年団の招待など、支援・交流を続けています。

講演で戸羽市長は、松田町からの支援に感謝する一方で厳しい現実に直面してきた1年半を振り返り、教訓として行政には情報の出し方、危機管理やボランティアを束ねる仕切り役の育成の必要性を強調されました。

未来のまちづくりに向けて市長は、障害者が自らまちへ出て、それを自然に受け入れるようなまちを目指すとし、8年がかりの復興計画に取り組む姿勢を示されました。

会場には、関係自治体や団体、一般参加者に交じり松田中学校の生徒ら約260人も参加、市長は「当たり前のことが当たり前にできる、普通の生活ができているありがたみを感じてほしい」と呼び掛け「復興は長い道のりですが支援してくださった皆さんを笑顔で迎えられるよう頑張ります。私たちを忘れないでください」と講演を結ばれました。

戸羽陸前高田市長の講演要旨

■法律と縦割り行政に阻まれて

私は一生絶望というものを感じることはないと思っていたが、市長就任から1カ月、立っていられない激震、そして大津波被害に生まれて初めて絶望した。

1年前のチリ大地震津波が90センチだったので、大丈夫と思っていた5・5メートルの防波堤を津波は難なく越えた。

あれから1年半。残念ながら復興の「ふ」の字もない。復興庁も発足したが、国と被災地のふれあいがそれほどない。消防署も流されたが、高台の仮市役所の隣の山林地を借りるのにも、許可と法律が立ちはだかり、6カ月もかかるという。〝縦割り行政〟を身をもって感じた。

■復興への応援と忘却

市長になったばかり、経験も人脈もない中、松田町だけではなく5月に三重県の人から市を応援する会をつくる話があった。ありがたかったが、アパートもホテルも流されて泊まる所も無い。「まず1回、現地に来てあなたたちの目で見てください」と伝えた。

全国の青年市長会会合でも応援の申し出や報告があった。大阪の豊中市では、奇跡の一本松保存へイベントを続けてくれた。みじめだったのは、被災地のことがだんだん忘れられてくることだ。

■子どもたちのこと

廃校になって小中学校一緒という学校もある。校庭が使えるのは2校だけ。心配なのは親を亡くした小中学生たちだ。29人いるが、高校生まで入れると41人が両親を失った。片親も150人以上に上る。行政として、子どもたちがあきらめないよう支えていく。子どもたちはいたって元気だが、心のケアが大切だ。

■行政としての考え方

二つの留意点がある。一つは情報の出し方、危機管理だ。3メートルの津波が99％の確率で来るとしながら、実際は1メートルだったということがある。南海トラフ大地震で、高知の黒潮町では34メートルもの津波が来るとされている。どう対応し、情報を出すのか。

二つ目は大勢のボランティアたちを受け入れ、仕事を振り分けるコーディネーターが必要だ。市の職員295人のうち68人、嘱託などを含めると111人が犠牲になった。

いざという時に公務員として、どこまでが仕事なのかと。特別公務員の消防団員51人が命を投げ出して市民らの避難にあたった。団員は避難する方向と反対の被災地に向かってくれた。

■これからのまちづくり

住宅、公共施設や商店など、今後、一からまちづくりをしなければならないが、米国留学中、目にした障害者が率先してまちへ出て、まちも彼らを自然に受け入れていた光景が忘れられず、陸前高田市でも取り入れたい。復興計画は8年を見込んでいる。

くやしい、くやしいの思いで1年半、市の復興に取り組んできた。たくさんの人や物を失ったが、また、多くの人や物を得た。世界に誇れる美しいまちへの復興を目指し、皆さんを笑顔で復興したまちに迎えたい。

1時間半にわたって復興への思いを語った戸羽市長と満席の会場

震災復興に熱い思い

笑顔で復興したまちに迎えたい

普通の生活へ道なお